

「反戦教師」 亡父の思い

今治市島しょ部の伯方高校（現今治西高校伯方分校）で長らく教壇に立ち、反戦を訴え続け1998年に72歳で亡くなった高校教師小田玄人（はる）さんの思いを伝える平和学習会が、同市伯方町有津の伯方分校であり、生徒約90人が平和の大切さを改めて考えた。



平和の大切さを訴える小田大河さん

今治西高伯方分校 故小田さんの息子講演



小田さんの息子で映像ディレクターの大河さん（62）＝東京都＝が講師を務めた。大河さんによると、小田さんは17歳で旧日本陸軍に入り、満州（現中国東北）などの戦地に赴いた。復員後、愛媛大で文学や哲学を学び社会科教師となり伯方高などで教えた。「戦争はいかん」。小田さんは子どもたちに常々、



平和の尊さ 高校生へ

16日あった講演会は、分校生の有志が本の一部を朗読した。大河さんは「戦争の悲惨な現実をどうか知ってほしい」と力説。伯方島で生徒と作った平和を題材にした約15分間の映像を披露し「『戦争は嫌だ』という意思をちゃんと声にしてほしい」と訴えた。生徒会長の3年水野結雅さん（17）は「当たり前のような平和の尊さを強く感じた。玄人さんと大河さんの思いを受け継がないといけない」と話した。（石田一真）

講演会で生徒と意見交換する小田大河さん（左）

教え子記す 両親の証言

元高校教師の小田玄人さんが生前、自費出版した「再びこの道を歩むまい 高校生の記す父母の戦争体験」（151頁）を自費出版。大河さんは「戦争が近づきそうな時に読んでほしい」と思ったのではないかと推察する。ロシアのウクライナ侵攻が始まった2022年、大河さんは東京の自宅で偶然本を見つけた。「世界情勢が不安定な中、おやじからのメッセージだと感じた。今こそ平和を願った父親の思いを現代の高校生に伝える必要があると痛感し、伯方分校に連絡を取った。16日あった講演会は、分校生の有志が本の一部を朗読した。大河さんは「戦争の悲惨な現実をどうか知ってほしい」と力説。伯方島で生徒と作った平和を題材にした約15分間の映像を披露し「『戦争は嫌だ』という意思をちゃんと声にしてほしい」と訴えた。生徒会長の3年水野結雅さん（17）は「当たり前のような平和の尊さを強く感じた。玄人さんと大河さんの思いを受け継がないといけない」と話した。（石田一真）



72年に「宿題」 被爆・戦場 体験本に

赤瀬さんも高校生の時、小田さんから親に戦争の話聞いてくる宿題を出され、父親の村上周一さん（享年83）に聞いた。周一さんは中国の戦地で足を撃たれ、傷口に蛆虫がわき激痛でのたうち回った過去を静かに打ち明けたが「戦争の話をしたのはこの時だけだった」。16日の講演会には赤瀬さんも出席。赤瀬さんが天国の小田さんに宛てて書き、生徒が代読した手紙では「人として戦争はしたらいかなと伝えていきたい」と反戦の思いをしたためた。赤瀬さんは「高校生が平和や戦争について真剣に考えてくれてよかった」と朗らかに語った。（石田一真）



①小田大河さんの講演を聞き入る赤瀬さん②自費出版の「再びこの道を歩むまい」高校生の記す父母の戦争体験